

最高裁判所 大ホール

最高裁判所の庁舎に正面玄関から入り、目の前にある階段を上ると、そこには、大法廷へと続く壮大な「大ホール」が広がっています。庁舎見学の際に立ち寄っていただくことが多い、大ホールの特徴をご紹介します。

大ホールの天井は、高く、半円形に作られています。また、天井の両側上部や大法廷前にあるスカイライト（ガラス天井）から自然光がさしこむようになっており、明るく品位のある空間を作り出しています。

○レリーフ【背景写真、右写真】

大法廷の入口正面には、森の木の幹をイメージしたレリーフ（浮き彫り細工）が据えられ、スカイライトからの光を浴びています。

○定礎石【右写真】

足元を見ると、床には最高裁判所の竣工年（1974年）が刻まれた定礎石があります。

定礎石の下には、鉛の箱が埋められており、その中には当時の村上朝一（むらかみ・ともかず）最高裁判所長官が書いた「定礎の辞」が刻み込まれたブロンズ銘板と、「最高裁判所庁舎新営の記録」が書かれた和紙が納められています。



○「椿咲く丘」像【左写真】

椿の花が咲く丘のベンチに仲良く座っている男の子と女の子のブロンズ像は、愛と平和をイメージして作られた「椿咲く丘」像です（作者：富永直樹）。

公平な裁判によって世の中のもめ事をなくし、皆が仲良く平和に暮らせるようにとの願いが込められています。

○「正義」像【右写真】

左手に天秤、右手に剣を持ったブロンズ像は、ギリシャ神話の法の女神「テミス」をモデルとして作られた「正義」像です（作者：圓錐勝三）。

左手の天秤は「公平・平等」を、右手の剣は「公平な裁判によって正義を実現するという強い意志」を表しています。



最高裁判所庁舎見学の申込みについては、裁判所ウェブサイト (<http://www.courts.go.jp/>) 内の「最高裁判所」・「見学・傍聴案内」コーナーにある「最高裁判所の庁舎見学」をご覧ください。